

昔、「大草原の小さな家」というテレビドラマが放映されていました。アメリカの開拓時代の物語ですが、ドラマの中には教会で礼拝している場面がよく登場しました。その時に歌っている賛美歌に、「悔い改めよ」という歌詞が多く使われていたことを思い出します。

またバラエティー番組では懺悔の場面を面白おかしく描いたり、告解室(懺悔室)が出て来る映画があったりと、キリスト教と悔い改めとはとても近い関係にあるように思います。

では、悔い改めとは何でしょうか。原語では、180度向きを変えるということを意味します。つまり、ちょっとよそを向いていたから神さまの方に向いてみようということではないのです。神さまに背を向け、自分の思いだけで生きていた過去と決別し、グルンと回れ右をして神さまに向き直る、そのダイナミックな心の変化こそが悔い改めなのです。

「悔い改め」とは単に自分の犯した過ちを悔いることではなく、神さまに立ち返ることなのです。そうしてわたしたちは、神さまの意志に従う者として生かされていくのです。

しかし、悔い改めは決して自分の力だけでできることではありません。また、律法や脅迫概念によって引き起こされるものでもありません。

福音に耳を傾け、イエス様に出会ったときに、わたしたちは悔い改めへと促されます。イエス様を救い主として受け入れ、すべてを委ねたときに、イエス様がわたしたちを悔い改めへと導いてくれるのです。

わたしたちはイエス様によってのみ神さまの元へと向き直ることができます。そのときに、天には大いなる喜びがあふれるのです。

次回は「偶像」です。お楽しみに。



「ザアカイ」

ニルス・ラーセン・スティーブンス

1864~1941年

言っておくが、このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある。

(ルカによる福音書 15章 10節)

